



大阪インターナショナルチャーチ  
ジョセフ・トッティス牧師  
2013年11月3日

なくてはならないもの 第1回(全4回)(クリスチャンの生活と証コース、および愛を示そうシリーズより)

## 全き平安

イエス・キリストを信じ従う弟子、クリスチャンの特徴として、はっきり現れているべきものは何でしょうか。

イエスはこう言われました。

**ヨハネ 13:34** あなたがたに新しい戒めを与えましょう。互いに愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。

**ヨハネ 13:35** もし互いの間に愛があるなら、それによってあなたがたがわたしの弟子であることを、すべての人が認めるのです。」

ということは、私たちはどう見られているべきでしょうか。

このような言葉を聞いたことがあります。  
その人がいれば周りが明るくなる、と言われる人もいれば、  
その人がいなくなってくれば周りが明るくなる、と言われる人もいる。

そう言われてしまう愛のない否定的な性質とはどのようなものでしょう。  
笑顔がない、挨拶をしない、いつも文句を言っている、誰かの悪口を言う、喜びや平安、愛がないなどでしょうか。

このようなクリスチャンは、イエス・キリストの福音を伝えようとしても、説得力がありません。  
神の平安や希望、愛を伝えようとしても、自分にその平安も希望も愛もないなら、なかなか伝わりません。

または、自分が肩を落としていて、人を主にある歩みに励ますことができるでしょうか。  
落胆しているのはなぜでしょう。職場、家計、健康、家庭などの問題が原因でしょうか。

「最近どう、元気？」と聞かれたら、どう答えますか。  
「実はかくかくしかじかのことがあって、だれそれのせいで、私の人生はめちゃくちゃです。とにかくたいへんなのです。」  
こんなことを聞かされたノンクリスチャンは、きっと思うでしょう。  
クリスチャンになったらこうなるのなら、やめとくわ、と。

「元気？」と聞かれたら、私が何と答えるか、ご存知の方もいらっしゃるでしょう。  
私はこう答えます。

「私にはもったいないくらい元気です。」  
ずいぶん変わった答えですね。  
けれども、考えてみてください。私たちが受けるべき報いは何でしょうか。

**ローマ 6:23** 罪から来る報酬は死です。しかし、神の下さる賜物は、私たちの主キリスト・イエスにある永遠のいのちです。

イエス・キリストを信じる私たちは全員、もったいないくらい元気なのではないでしょうか。  
こう答えることで思い起こすべきなのは、人生いろいろたいへんだと思うときでも、実は「もったいないくらい」よくしていただいているということです。

そういうわけで、  
**ピリピ 4:4** いつも主にあって喜びなさい。もう一度言います。喜びなさい。

主にあっては、常に喜ぶべきことがあります。  
主の祝福をひとつずつ数えれば、主がしてくださったことが見えてくるでしょう。

私たちは喜ぶべきです。

主が良いお方であることを喜び、過去・現在・未来に主がしてくださる業を喜ぶべきです。  
私たちはそうできているのでしょうか。私たちの生き方は、この世に喜びの姿勢を見せているのでしょうか。

作り笑いを見たことはありますか。  
その人の目を見れば、本当の笑顔か作り笑いかたいていわかります。  
目は心の窓と言われます。  
心に悩みを抱えている人は、笑顔を作ろうとしても、目が笑えていないということがあります。  
笑顔を作っている、その心が表れます。  
その表情や態度に、そして、喜びのない姿、人に対する愛とあわれみの欠如に表れてしまうのです。  
本心を隠すのが上手な人もいますが、いつまでも隠し通すことはできないでしょう。

悩み苦しみの中にも笑顔でいられるのは、神からの大きな賜物です。  
それが喜びであり、平安です。これは人知を超えた聖霊の実です。

私たちに悲しませ、落ち込ませるものとは何でしょう。  
孤独、病気、家計のひっ迫、人間関係の問題、など。

では反対に、私たちに幸せにしてくれるものとは何でしょう。  
良い友だち、健康、おいしい食べ物、など。

このふたつは、相反するもので、交わることはありません。  
ということは、  
一日のうちで突然、どちらかの感情がもう一方の感情を打ち消すことがあるというわけです。  
私たちは感情のジェットコースターに乗っているようなものです。  
「...嬉しい...悲しい...」  
気分が「悪い...良い...悪い...」  
といった調子です。

本当の幸せや充実感、この世の何物にも見出せません。

#### 聖書BIBLE

#### Basic, Instructions, Before, Leaving, Earth.

訳すと、この地上を離れる前に身につけるべき基本的教えです。  
聖書はこう言います。

**詩篇 146:5** 幸いなことよ。ヤコブの神を助けとし、その神、【主】に望みを置く者は。

**詩篇 144:15** 幸いなことよ。このようになる民は。幸いなことよ。主をおのれの神とするその民は。

皆さんは今日、主にあって幸い、つまり幸せですか。

皆さんにお尋ねします。  
同じことを見聞きした人たちが、まったく違う結論に至るのはなぜかと不思議に思ったことはありませんか。  
それは、何事もとらえ方によるからです。

信仰についても同じことが言えます。  
すべては私たちの捉え方次第です。あらゆる状況をどう見るかによるというわけです。  
正しい姿勢であれば、正しい観点で物事を見ることができるよう。

イエスは、私たちが幸福でいられる態度の一覧を与えてくださいました。ご存知でしたか。  
それは、至福の教えと呼ばれます。  
これが、クリスチャンとしてはっきり表れているべき特徴と言えるでしょう。

**マタイ 5:1** この群衆を見て、イエスは山に登り、おすわりになると、弟子たちがみもとに来た。

**マタイ 5:2** そこで、イエスは口を開き、彼らに教えて、言われた。

**マタイ 5:3** 「心の貧しい者は幸いです。天の御国はその人たちのものだから。

**マタイ 5:4** 悲しむ者は幸いです。その人たちは慰められるから。

**マタイ 5:5** 柔和な者は幸いです。その人たちは地を受け継ぐから。

**マタイ 5:6** 義に飢え渴く者は幸いです。その人たちは満ち足りるから。

マタイ 5:7 あわれみ深い者は幸いです。その人たちはあわれみを受けるから。

マタイ 5:8 心のきよい者は幸いです。その人たちは神を見るから。

マタイ 5:9 平和をつくる者は幸いです。その人たちは神の子どもと呼ばれるから。

マタイ 5:10 義のために迫害されている者は幸いです。天の御国はその人たちのものだから。

マタイ 5:11 わたしのために人々があなたがたをののしり、迫害し、ありもしないことで悪口を浴びせる  
とき、あなたがたは幸いです。

マタイ 5:12a 喜びなさい。喜びおどきなさい。天ではあなたがたの報いは大きいから。

この聖書箇所を読んで、「ちょっとよくわからない」と思う部分があるでしょう。

迫害されて幸いですでしょうか。ありもしないことで悪口を浴びせられて幸いですでしょうか。  
喜びおどきなさい…かなり不可解です。  
祝福というよりは、試練のように思えます。

試練は通常、人に幸福や喜びではなく不安をもたらすものではありませんか。

先ほど、このようなみことばを読みました。

**ピリピ 4:4** いつも主にあって喜びなさい。もう一度言います。喜びなさい。

どうやってでしょう。  
こんなたいへんな状況に置かれているのに、どうやって喜びや平安を持てるのでしょうか。

パウロはその方法について、このように続けました。

**ピリピ 4:6** 何も思い煩わないで、あらゆる場合に、感謝をもってささげる祈りと願いによって、あなたが  
たの願い事を神に知っていただきなさい。

ピリピ 4:7 そうすれば、人のすべての考えにまさる神の平安が、あなたがたの心と思いをキリスト・イエ  
スにあって守ってくれます。

理想的な環境によって平安がもたらされるものではありません。  
平安は、職業や家庭、豪邸、スパワールドには見つかりません。ディズニーランドでさえ平安をもたらす  
ことはできません。  
これらはみな素晴らしいものですが、一過性のものです。  
というのも、人生の試練から私たちを守ることができないからです。  
試練に見舞われたら、私たちはどうするでしょう。  
逃げ隠れできるのでしょうか。  
そうしようとする人もいます。ひきこもるのです。

全き平安は、キリストのうちにのみ見出せます。このお方こそが私たちの平安です。

**イザヤ 26:3** 志の堅固な者を、あなたは全き平安のうちに守られます。その人があなたに信頼しているか  
らです。

理想的な環境がそろって、全き平安を得るものではありません。  
問題がないことで、全き平安を得るのでもありません。

全き平安とは、神に心をしっかり留めることだと聖書は語ります。  
神を信頼するかどうかという毎日の選択です。  
私たちが誰に心を留めているかによって、どんな状況でも平安を持つことが可能です。  
平安がないなら、私たちの心や思いがどこにあるかと問いかけるべきです。  
神ではなく、問題に集中しているのです。  
そうすると、パニックになって思い悩み、ストレスを抱え、不安や恐れを感じます。  
それは、解決ではなく問題に焦点を当てているからです。

神の平安を知るには、イエスから目を離さないことです。イエスこそ、私たちの直面する問題すべての答えだからです。

イエスが水の上を歩いて来られた話を覚えていますか。

**マタイ 14:29** イエスは「来なさい」と言われた。そこで、ペテロは舟から出て、水の上を歩いてイエスのほうに行った。

マタイ 14:30 ところが、風を見て、こわくなり、沈みかけたので叫び出し、「主よ。助けてください」と言った。

マタイ 14:31 そこで、イエスはすぐに手を伸ばして、彼をつかんで言われた。「信仰の薄い人だな。なぜ疑うのか。」

ペテロがイエスから目を離し、嵐に目をやった途端、どうなりましたか。

彼は沈みかけました。

私たちも沈んでいくように感じることもあるでしょう。

もし沈みそうになったら、どうすればよいのでしょうか。

目前の問題ではなく、解決を与えてくださるお方に目をやらなければなりません。

イエスを見つめるのです。

主がすべての答えだからです。

ペテロは何と言いましたか。

「主よ。助けてください」と言いました。

イエスはどうなされたでしょう。

すぐさま手を伸ばして、ペテロをつかまれました。

イエスは私たちのこともつかまえてくださいます。

私たちがイエスを見つめ、助けを求めて叫ぶなら、必ず助けてくださいます。

四六時中、私たちとともにいて、人生の嵐が来てもイエスから目を離さないようにと語りかけてくれる人がいたらどんなによいでしょう。

実は、私たちにはそんなお方がおられます。イエスはおっしゃいました。

**ヨハネ 14:26** しかし、助け主、すなわち、父がわたしの名によってお遣わしになる聖霊は、あなたがたにすべてのことを教え、また、わたしがあなたがたに話したすべてのことを思い起こさせてくださいます。

ヨハネ 14:27 わたしは、あなたがたに平安を残します。わたしは、あなたがたにわたしの平安を与えます。わたしがあなたがたに与えるのは、世が与えるのとは違います。あなたがたは心を騒がしてはなりません。恐れてはなりません。

イエスはこう言われました。わたしはあなたたちに聖霊を送る。そして、あなたがたに平安を残す、と。

このふたつのつながりは何でしょう。

私たちの心と思いがイエスにしっかり留まっているなら、聖霊が神の平安を与えてくれるのです。

平安とは、私たちのうちに働く聖霊の業です。

改めて言いますが、問題のない理想的な環境から平安を得ることはできません。

私はそのことを、身をもって体験しました。以前の私は、何の問題もなく理想的な環境で生きていました。

考えてみてください。すべてが完ぺきなら、それ以上何を期待できるでしょう。何もありません。

このような人々が、じつは一番みじめな人なのです。私もそうでした。

平安とは、イエス・キリストにつながることでのみ得られる賜物です。このことを理解できた私は本当に幸せです。

**ヨハネ 15:4** わたしにとどまりなさい。わたしも、あなたがたの中にとどまります。枝がぶどうの木についていなければ、枝だけでは実を結ぶことができません。同様にあなたがたも、わたしにとどまっていなければ、実を結ぶことはできません。

イエスのおっしゃる実とは何でしょう。

**ガラテヤ 5:22, 23a** しかし、御霊の実は、愛、喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実、柔和、自制です。

平安は御霊の実です。

平安がないのは、自分で平安を持たないという選択をしているからです。  
もう一度言いますが、平安は捉え方次第です。  
嵐が来ても神を信頼するか否かという私たちの決断次第です。  
キリストに留まるか否か、しっかりつかまるか否か、主に助けを求めるか否か。

**ピリピ 4:6** 何も思い煩わないで、あらゆる場合に、感謝をもってささげる祈りと願いによって、あなたがたの願い事を神に知っていただきなさい。

**ピリピ 4:7** そうすれば、人のすべての考えにまさる神の平安が、あなたがたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってくれます。

神の平安は捉え方次第です。また、聖霊の働きです。  
しかし、それだけではありません。全き神の平安は、あらゆる試練から私たちの心と思いを守る砦となります。

私たちは神の平安を追いかけたり、捜しまわったりする必要はありません。  
人は神の平安の中に守られるのです。  
クリスチャンは、神の平安を砦のように自分の周囲にめぐらすべきです。これは、祈りと願いをささげる習慣によってなされます。

あまり平安がないということは、祈りの生活がしっかりしていないということです。  
すぐに動揺したりストレスを感じたりするなら、祈りが必要なのです。  
私たちが不安に思っていることについて神に祈る時間をとり、神を信頼する必要があります。  
そうすれば、信仰の砦を周囲に築くことができます。その砦がこの世のあらゆる状況から私たちを守ってくれます。

将来のことはどうでしょう。  
将来のことを考えると、不安になりますか。

「私に対する神様のみこころがわかったらよいのに」  
と思うでしょう。

**ヤコブ 1:5** あなたがたの中に知恵の欠けた人がいるなら、その人は、だれにでも惜しげなく、とがめることなくお与えになる神に願いなさい。そうすればきっと与えられます。

**ヤコブ 3:17** しかし、上からの知恵は、第一に純真であり、次に平和、寛容、温順であり、また、あわれみと良い実とに満ち、えこひいきがなく、見せかけのないものです。

他に神の平安をくれるものは何でしょうか。  
上からの知恵です。

神の知恵は、将来のことについても平安をくれます。

私たちの誰も、将来を予見したり思いのままにしたりすることはできません。  
けれども、神からの知恵を用いてすべてに対応することができます。  
神の知恵があれば、将来のことについてもずいぶん平安を得ることができます。

将来を自分の思いのままに動かしたいと思うと、ストレスがたまります。  
なぜなら、不可能なことをしようとするからです。  
人生は（特に相手のあることについてはそうですが）  
どれほど計画に計画を重ねても、実際どうなるかはわからないのです。

**箴言 16:9** 人は心に自分の道を思い巡らす。しかし、その人の歩みを確かなものにするのは【主】である。

知恵とは、自分ではどうにもならないことに適切に対応する能力です。

人生を左右する大切な決断は、よくよく考えてすべきです。一方、今日のクリスチャンの間では、平安があるかどうかを基準に大切な決断をするという風潮があります。

クリスチャンがこんなふうにするのをよく耳にします。

「これが神様のみこころだと思います。○○があるから」

その○○とは何でしょうか。平安です。

けれども、イエスは地上の人生で最大の決断をする際、平安はなかったと思われれます。

**ルカ 22:44** イエスは、苦しみもだえて、いよいよ切に祈られた。汗が血のしずくのように地に落ちた。

血汗症とは、皮膚から血がにじみ出る実際にある病名です。

死に直面するなどの極度のストレスによって引き起こされます。

イエスは十字架にかかることについて平安はありませんでした。むしろ、神のみこころを行うと決心することで平安を見出したのです。

困難が多いので、神が道を閉ざされたのだと思う、

というようなクリスチャンの言葉も聞きます。

けれども、使徒パウロはそんなことは言いませんでした。

**1コリント 16:9** というのは、働きのための広い門が私のために開かれており、反対者も大ぜいいるからです。

神の平安は、戦いがないという意味ではありません。

神の平安は、戦いがあっても存在するのです。

それは、人知を超えた平安です。人間である私たちに理解できるなら、神からのものではないのかもしれませんが。

よく人はこんなふうにあります。

「どうすれば、すべきことがわかるのですか」

「ジョセフは、神から日本に召されているとどうしてわかったの」

実は、わかりませんでした。

平安があったかというと、

新婚で、仕事やお金のあてもなく、言葉もわからないのですから、

平安はあったでしょうか。

その状況自体には、平安があるわけありません。

けれども、神のご臨在の中に平安があったかと言えば、

もちろんありました。

どういうことかというと、

反対や困難がないから平安があったのではなく、反対や困難があるにもかかわらず、平安があったのです。

私とエイミーは、神に召されているのでなければ、頭がおかしくなったのでしょう。

本当に召されたかを確認する方法はただひとつ、日本に来ることでした。

そのときも今も、私たちはただ最善を尽くし、あとは神にお任せしようと心に決めています。

神が導かれるところには、備えも必ずあると信じました。

そこが大切なポイントです。

嵐を見つめるのをやめて、キリストにしっかり目を留めると、素晴らしいことが起こります。

嵐がおさまるのです。

キリストを一心に見つめると、人生の嵐が変わらず吹き荒れていようと、私たちの心の中にまで嵐が入り込みことはありません。

これこそ、神の全き平安です。

先月、ブライアン牧師がマルコ4章からそのことを語ってくださいました。

**マルコ 4:37** すると、激しい突風が起こり、舟は波をかぶって、水でいっぱいになった。

マルコ 4:38 ところがイエスだけは、ともなうで、枕をして眠っておられた。弟子たちはイエスを起こして言った。「先生。私たちがおぼれて死にそうでも、何とも思われないのですか。」

マルコ 4:39 イエスは起き上がって、風をしかりつけ、湖に「黙れ、静まれ」と言われた。すると風はやみ、大なぎになった。

マルコ 4:40 イエスは彼らに言われた。「どうしてそんなにこわがるのです。信仰がないのは、どうしたことです。」

弟子たちは、信仰がないと叱られましたが、できごとの順番を改めて見てみましょう。

1. 嵐が起こった
2. 助けを求めた
3. 静まった

「黙れ、静まれ」

これは、嵐に対してだけでなく、私たちにも向けられた言葉です。

**詩篇 46:10**「静まって、わたしこそ神であることを知れ。わたしはもろもろの国民のうちにあがめられ、全地にあがめられる」  
(口語訳)

パウロはこのように勧めます。

**コロサイ 3:15a** キリストの平和が、あなたがたの心を支配するようにしなさい。

私たちはどうでしょう。  
神の平安が私たちの心を支配するようにしますか。  
これは重大なことです。人は私たちの生き方を見ているからです。  
物事がうまくいかないときに私たちがどうするかを人は見えています。  
私たちの反応を知りたいのです。  
私たちクリスチャンは、口で信じていると言う内容を本当に信じているでしょうか。

クリスチャンはティーバッグのようだと行った人がいます。  
熱いお湯に入れてみないと、その中身がわからないということだそうです。

アッシジの聖フランチェスコは、こう言いました。  
「福音を絶えず伝えなさい。必要ならば言葉を使いなさい。」  
私たちはそのようにありたいものです。  
私たちの生き方そのものが、ある人にとっては唯一の聖書となるかもしれないのです。

使徒パウロは次のように記しました。最後にその個所を読みたいと思います。

**2コリント 3:2** 私たちの推薦状はあなたがたです。それは私たちの心にしるされていて、すべての人に知られ、また読まれているのです。

人は私たちの生き方を見えています。  
イエスを人々に示しましょう。